

まち・ひと・しごと創生

第2期「大野市総合戦略」(素案)



福井県 大野市

1. 基本的な考え方

(1) 背景と目的

わが国では、平成20年頃から人口減少時代が到来しており、将来的には世界に類を見ない極めて急激な人口の減少が懸念されます。

人口減少は、第一段階(若年減少、老年増加)、第二段階(若年減少、老年維持・微減)、第三段階(若年・老年とも減少)を経て進行していきますが、地方では既に第二・第三段階に移行しています。

少子化・高齢化の進行に的確に対応し、人口の減少に歯止めを掛けるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくため、国では、平成26年にまち・ひと・しごと創生法が制定され、人口の現状と将来の展望を提示する「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び平成27年度から5か年の施策の方向性を提示する「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が策定されました。

これを受けて、地方公共団体においては、「地方人口ビジョン」及び「地方版総合戦略」を策定し、人口減少対策や地方創生に戦略的に取り組んできました。

その結果、地方の若者の就業率、訪日外国人旅行者数、農林水産物・食品の輸出額は増加傾向にあるなど、しごとの創生に関しては一定の成果が見られた一方、人口減少や少子化・高齢化に歯止めが掛からず、東京圏への転入超過も一貫して増加しており、更なる取り組みが必要です。

これに対応するため、「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン(令和元年改訂版)」及び第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」がとりまとめられ、令和元年12月20日に閣議決定されました。

大野市においても、人口減少や少子化・高齢化の進行に伴い地域コミュニティの存続が危ぶまれている現状を鑑みて、議会や産、官、学、金融機関、労働団体、メディア、女性、若者、高齢者など各界各層の方々との連携の下、平成27年10月に「大野市人口ビジョン・大野市総合戦略」を策定し、さまざまな観点から施策に取り組んできました。

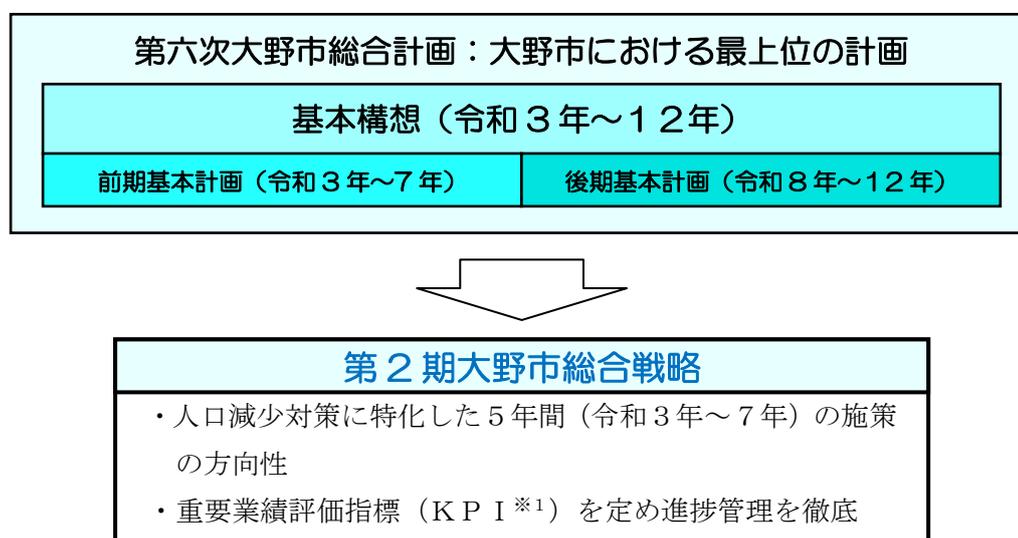
これまでの取り組みによる成果と課題をもとに、さらなる人口減少対策や地方創生に戦略的に取り組んでいくことを目的として、「大野市人口ビジョン(令和2年度改訂版)・第2期大野市総合戦略」を策定します。

(2) 総合戦略の位置付けと総合計画との関係

大野市では、令和3年度から令和12年度までの10年間を期間とした、まちづくりの目標と方向を示した市の最上位計画である第六次大野市総合計画を策定し推進します。

この総合計画では、大野市民憲章と大野市教育理念を恒久的なまちづくり、人づくりの理念としながら、令和12年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標であるSDGs(持続可能な開発目標)の考えを取り入れ、目指す10年後のまちの将来像を「人がつながり地域がつながる 住み続けたい結のまち」と定め、六つの基本目標の下、さまざまな施策に取り組むこととしています。

総合戦略はこれらのうち、人口減少対策と捉えられる施策をまとめた計画として位置付けられます。



(3) 総合戦略の対象期間

第2期大野市総合戦略の対象期間は、令和3年度～7年度の5年間とします。

(4) 目指すべき将来像

総合計画に掲げる将来像「人がつながり地域がつながる 住み続けたい結のまち」を目指して、多様な取り組みを進めていきます。

また、具体的な将来目標人口としては、令和7年(2025)年に定住人口29,000人、令和12年(2030)年に27,300人、令和27年(2045)年に23,200人とすることを目指します。

2. 政策の企画・事項に当たっての基本方針

(1) 第1期総合戦略の取り組み

大野市では、国の総人口が今後長期の減少過程に入ること踏まえて、地域活力の維持・増進に向けて、定住人口に交流人口を加えた「ふれあい交流人口」の数値目標を掲げ、さまざまな政策を進めてきました。

●「安定した雇用を創出する」

- ・大野市富田産業団地を整備しました。
- ・事業者の商品開発や販路開拓、女性の起業などを支援しました。
- ・結の故郷はたらく若者応援事業を実施し、大野市に定住し働いている若者を支援しました。
- ・働く人にやさしい企業応援事業や育児休業等取得促進事業を実施し、働きやすく、子育てと仕事を両立できる職場環境づくりを支援しました。
- ・農林業や農山村の活性化に取り組む集落などを支援しました。
- ・農業後継者の育成や新規就農者への支援を行いました。
- ・特産作物の加工開発や販路拡大への支援を行いました。
- ・間伐材の搬出を支援しました。

●「新しいひとの流れをつくる」

- ・「天空の城 越前大野城」や「日本一きれいな星空」などの地域資源を「越前おおのブランド」として、各種メディアを通じて発信しました。
- ・中心市街地において、空き店舗への出店支援、住宅取得費や家賃の優遇助成、景観に適した修景工事への助成などを行いました。
- ・まちなか観光客の誘致や商店街の賑わい創出への支援を行いました。
- ・地域おこし協力隊員の活用と地元への定着に取り組みました。
- ・定住のための住宅取得やリフォームに対する助成、住宅所有者に対する空き家情報バンク制度の周知を行いました。
- ・道の駅「越前おおの 荒島の郷」を整備し、出荷団体である「産直の会」の取り組みを支援しました。
- ・COCONOアートプレイスを整備し、企画展などを行いました。
- ・大野へかえろう事業や結の故郷奨学金事業を実施し、若者の地元定着に取り組みました。
- ・越前おおの暮らし体験プログラムなどを実施し、移住者の積極的な受け入れに取り組みました。
- ・市内に観光Wi-Fiステーションを整備しました。
- ・フェイスブックなどのSNSを活用した情報発信を行いました。
- ・海外誘客に向けたPR活動や観光パンフレットの多言語化を行いました。

●「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」

- ・婚活カステップアップ事業やハッピーブライダル応援事業を実施し、結婚への支援を行いました。
- ・結の故郷ゆめみらい支援事業、結の故郷すこやか家族応援事業を実施し、結婚や子育てを経済的に支援しました。
- ・地域子育て支援センター、子育て交流ひろばにおいて、子育て家庭を支援しました。
- ・一時的な保育所での預かりや延長保育、障害児保育など特別保育を行いました。
- ・放課後児童クラブや放課後子ども教室による、子どもの居場所づくりに取り組みました。
- ・「大野ですくすく子育て応援パッケージ」を作成し、さまざまな観点から子育て世代への支援を強化しました。

●「時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」

- ・「水への恩返し Carrying Water Project」の実施を通して、市民活動団体や企業などとの協働に取り組みました。
- ・自主防災組織の育成と活動支援、女性消防団員による高齢者世帯への防火訪問などを行いました。
- ・地域ぐるみによる高齢者宅などの屋根雪下ろしや有害鳥獣対策を支援しました。
- ・越美北線の利用促進や広域路線バス運行への支援、市内路線バスや乗合タクシーの運行を行いました。
- ・結の故郷ふるさと学習交流会や結の故郷みこしダンスパフォーマンス、結の故郷小学生ふるさと芸能発表会などを通して、「大野人」の育成に取り組みました。
- ・「おおの遺産」の認証と伝統文化の継承に向けた取り組みへの支援を行いました。
- ・結の故郷づくり交付金事業や世代間結づくり事業などを実施し、地域づくり活動を支援しました。

(2)これまでの取り組みや市民ニーズなどを踏まえた課題

人口減少対策の推進会議である「人口減少対策会議」、総合計画策定に関する諮問機関である「総合計画審議会」、総合計画に関する市民意向調査などから抽出された課題を以下にまとめます。

●「安定した雇用を創出する」

- ・中部縦貫自動車道県内全線開通を好機と捉えた産業の活性化
- ・道の駅を最大限に活用した地域活性化
- ・産業団地などを活用した企業誘致の推進
- ・各産業における担い手や後継者の確保
- ・デジタル技術などの導入促進
- ・多様な働き方ができる職場環境づくり

●「新しいひとの流れをつくる」

- ・地方回帰の関心が高まっている中、都市部在住者に大野市への移住に関心を持ってもらえる情報発信
- ・空き家の活用や空き家情報の充実
- ・移住者のサポートを行う体制整備
- ・大野市の安全で安心な居住環境や豊かな自然環境を生かした移住定住促進

●「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」

- ・妊娠期からの切れ目のない支援体制
- ・多様なニーズに対応できる子育てサービスの提供
- ・働きながら子育てがしやすい雇用環境と職場環境づくり

●「時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」

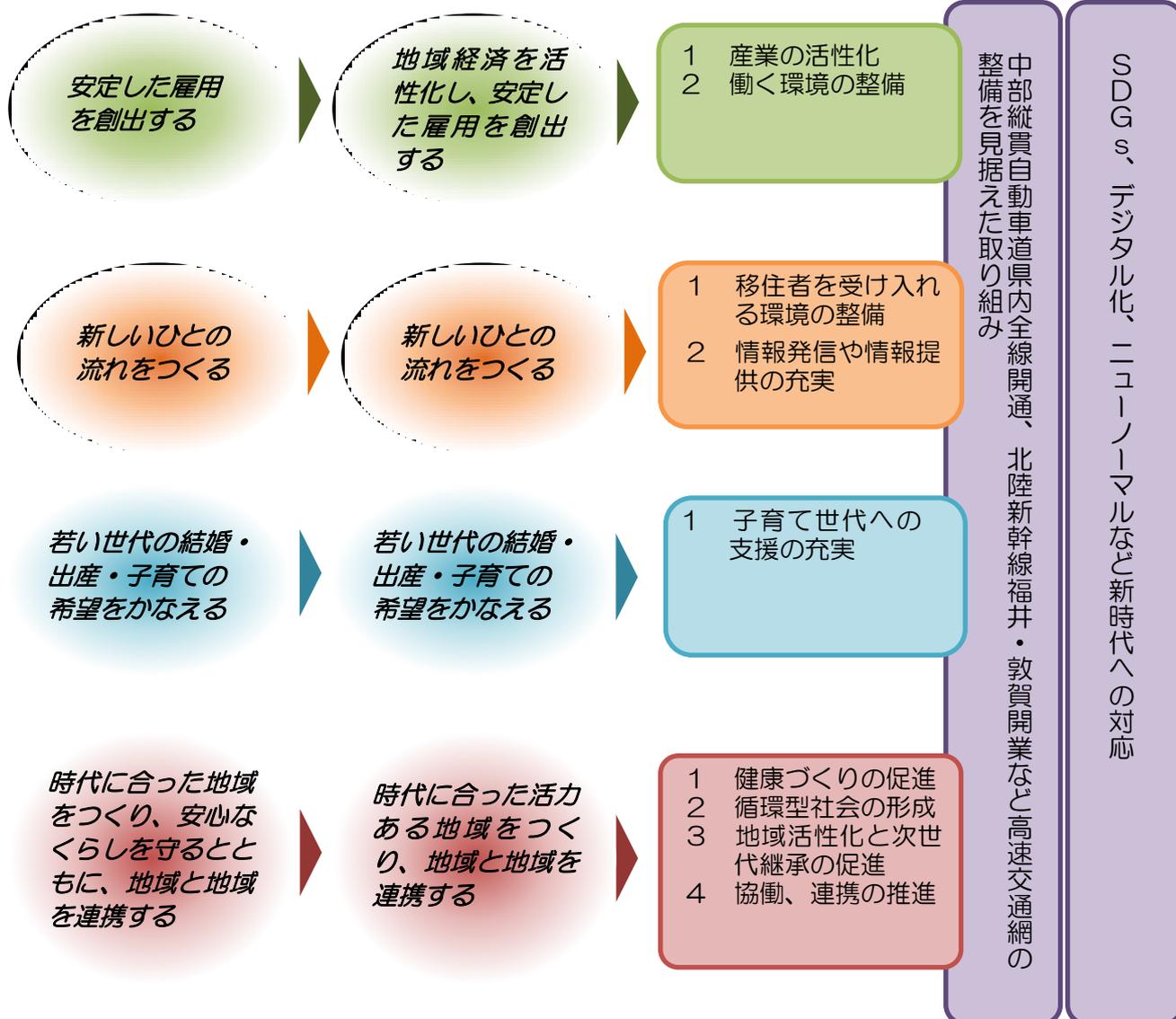
- ・公民館を核とした地域づくり
- ・若者や女性など多様な人材を確保と世代間交流などを通じた、地域の次世代継承
- ・伝統文化の継承や文化財の維持管理の取り組み
- ・市民一人一人が健康状態を把握し、スポーツなどを通じた健康づくりに取り組むことができる環境づくり
- ・ライフステージに応じた切れ目のない健康づくりの支援
- ・誰もが相互に理解を深め尊重し「結の心」で支え合う意識の醸成
- ・ごみの減量や脱プラスチックなど環境に対する意識の醸成
- ・水循環の重要性についての理解と関心、認知度の向上

(3) 目指すべき方向性

これまでの取り組みや市民ニーズ、現状と課題などを踏まえて、今後、目指すべき方向性を以下のように考えます。

【これまでの施策の方向性】 【新しい施策の方向性】

【基本的方向】



3. 今後の施策の方向

(1) 地域経済を活性化し、安定した雇用を創出する

中部縦貫自動車道県内全線開通や北陸新幹線福井・敦賀開業を見据え、積極的な企業誘致を展開するとともに、大野市の地域資源を生かした農林業や商工業、観光業などの発展、働きやすい環境づくりを推進します。

《基本目標》

数値目標指標	R1基準数値	R7目標数値
創業者数	—	10人
工場新設等に伴う雇用創出数	71人	127人

《基本的方向》

1 産業の活性化

磨き上げた農林水産物、商品、観光、サービスなどの大野市ならではの地域資源を売り出していくとともに、新たな商品の開発やサービスの創出に取り組みます。

2 働く環境の整備

後継者の育成や担い手の確保、次世代技術の導入などに取り組むとともに、新たな働く場所を創出し、誰もが生き生きと働くことのできる環境を整備します。

《総合計画上の位置付》

基本目標Ⅲ「地域経済」 歴史・風土と新たな強みを生かした活力あるまち

項目	施策
農業	1 魅力ある農業経営を実現します 2 特色ある越前おおの産農林水産物の生産や販売を振興します 3 多様な人材の活躍による農山村の維持と活性化を目指します
林業	1 林産物の生産能力の向上を支援します 2 山林を適切に管理します 3 林業従事者の確保と育成に取り組みます
商工業	1 事業者の経営課題に対し総合的に支援します 2 まちなかの賑わいを創出します

観光業	<ol style="list-style-type: none"> 1 魅力ある地域資源を磨き上げ、観光資源として活用します 2 観光客の来訪や満足度を高める取り組みを推進します 3 観光営業活動の強化と情報発信を充実します
働く環境	<ol style="list-style-type: none"> 1 企業の魅力や生産性、労働環境の向上とともに、多様な人材の就業を支援します 2 企業誘致を進めるとともに新たな産業を育成します

■ 基本的方向1：産業の活性化

【農業】

- ・新規就農者や後継者の確保と育成に取り組むとともに、受け入れ体制づくりを支援します。
- ・スマート農業やデジタル技術の活用による次世代農業を促進します。
- ・大野の気候や風土に合った、多様な農林産物の生産を促進します。
- ・道の駅「越前おおの 荒島の郷」や道の駅「九頭竜」での販売、ふるさと納税の返礼品としての活用など、多様な販売活動を促進します。
- ・園芸作物や特産作物を生産する農業者の育成と支援に取り組みます。
- ・アユなど淡水魚の稚魚の放流や養殖を促進します。

【林業】

- ・特用林産物の生産振興、販路拡大を支援します。
- ・森林環境譲与税を活用して間伐を促進するとともに、航空レーザーやドローンなどの先進技術による山林のデータ化や山林境界の明確化を進め、林業の効率化を図ります。
- ・山林の適正な管理を進めるため、木質バイオマス発電所などでの間伐材の活用促進に向けた支援を行います。
- ・新規就業者の研修に対し補助を行うなど、林業従事者の育成を支援します。

【商工業】

- ・新たな店舗の創業や、事業承継を支援します。
- ・市民や観光客が手に取りたくなる大野ならではの商品づくりと、インターネットを活用した情報発信や販路拡大を支援します。
- ・飲食店での地元農林水産物を活用した大野ならではの食べ物の提供を促進します。
- ・キャッシュレス化やWi-Fi環境の整備を促進します。
- ・事業所の市内への立地や事業の拡大に対し支援するとともに、産業団地に企業を誘致します。
- ・国や県の支援施策を積極的に活用し、企業の高付加価値製品などの開発や製造の支援を行うとともに、AI(人工知能)やロボットなど先端技術の導入を促進します。
- ・企業の事業継続力強化を促進し、大規模災害などが頻繁に起こる時代に対応できるようにします。
- ・店舗や商店街などの創意工夫による販売促進、イベント、賑わいづくりの取り組みなどに支援します。
- ・市街地の空き家や空き店舗の活用による賑わいづくりに支援します。
- ・関係者と協議し、七間朝市の活性化に向けた支援を行います。

【観光業】

- ・民間事業者と連携し、道の駅「越前おおの 荒島の郷」と道の駅「九頭竜」を活用して、アウトドアスポーツやレジャーを推進します。
- ・市民が企画するイベントへ支援するなどして、市民主体の観光を推進します。

- ・新たな土産品や食メニューの開発を支援します。
- ・リピーターを獲得するため、店舗や宿泊施設、観光施設の「おもてなし」の向上に取り組みます。
- ・特産品、名物が食べられる店舗や機会を充実します。
- ・道の駅「越前おおの 荒島の郷」道の駅「九頭竜」と市内の観光資源を繋ぐことによる市内での回遊性の向上や、近隣自治体と連携した周遊滞在型観光を推進します。
- ・パンフレットなどの多言語化やフリーWi-Fiスポットの整備、トイレの洋式化など、外国人観光客の受け入れ環境を整備します。
- ・観光による地域の「稼ぐ力」を向上させるため、観光DMO設立の可能性や観光協会の機能強化などについて検討し、実現に向けて取り組みます。

重要業績評価指標 (KPI)	R1 基準数値	R7 目標数値
担い手への集積率	67.9%	80%
林業作業士数	30 人	35 人
創業者数	—	10 人
まちなかの観光入り込み客数	82.9 万人	125 万人
道の駅年間来場者数	—	80 万人
観光消費額	2,945 円	5,000 円
宿泊者数	86,100 人	130,000 人
観光入込客数	199 万人	330 万人

主な事業
◆

■ 基本的方向2: 働く環境の整備

- ・働く人の地元定着に繋げるため、誰もが働きやすい職場環境づくりを促進するとともに、市内企業の魅力を子ども達や就職を検討する若者へ発信します。
- ・中部縦貫自動車道県内全線開通による福井県の東の玄関口としての立地特性を生かし、さまざまな分野の企業を対象に誘致活動を展開することで、産業団地に魅力ある企業を誘致します。
- ・新たな産業を創造するため、ICT関連企業の誘致を進めるとともに、起業家を育成します。

重要業績評価指標 (KPI)	R1基準数値	R7目標数値
国・県の働き方改革関係制度認定企業数	—	10社
工場新設等に伴う雇用創出数	71人	127人

主な事業


(2)新しいひとの流れをつくる

「大野に住みたい、住み続けたい」という人が増え、地域においても移住者を受け入れる環境が整えられるよう支援するとともに、大野市の魅力を広く発信することで、さらなる移住定住の増加を促進します。

《基本目標》

数値目標指標	R1基準数値	R7目標数値
社会増減数	-180人	-92人

《基本的方向》

1 移住者を受け入れる環境の整備

移住者の受け入れや、関係人口の創出と拡大に積極的に取り組みます。

2 情報発信や情報提供の充実

さまざまな媒体を活用した情報発信などを充実します。

《総合計画上の位置付》

基本目標Ⅴ「地域づくり」 みんなでつながり地域が生き生きと輝くまち

項目	施策
移住定住	1 住まいや仕事の確保を支援します 2 地域での受け入れ環境を整えます 3 大野の魅力を伝えます

基本目標Ⅵ「行政経営」 結のまちを持続的に支える自治体経営

項目	施策
情報共有	1 情報発信や情報提供の充実を図ります

■ 基本的方向1: 移住者を受け入れる環境の整備

- ・地元民間事業者などと連携し、有効活用できる空き家物件の掘り起こしと空き家情報バンクへの登録を促進することで、空き家の利活用を図ります。
- ・移住や定住希望者が居住するために必要となる住宅取得やリフォームに対して支援します。
- ・集落が行う移住者を受け入れる体験会や交流会に対する支援を行います。
- ・移住後のサポートや地域住民との出会いの場の創出を図るため交流会を開催し、情報交換の場を提供します。
- ・大野市で地域おこし協力隊として活動してきた隊員が定着できるようサポートを行います。
- ・高校生に大野市のLINE登録を推奨し、大野へかえろうと思ってもらえるような情報や県内の企業情報などをLINEを活用して発信し、大野市への定住を促進します。
- ・都市部在住者が、「新しい生活様式」に添った大野市での楽しい生活がイメージできるような情報発信を行うとともに、大野市に実際に来て、大野の良さを体験できるようメニューの充実を図ります。
- ・県や他市町と連携し、都市圏で大野市の魅力や移住定住施策を情報発信するとともに、オンラインを活用した相談体制も整え、きめ細やかなサポートを行います。

重要業績評価指標(KPI)	R1基準数値	R7目標数値
定住のための住宅取得等助成件数	374	434
社会増減の差	-180	-92

主な事業
◆

■ 基本的方向2: 情報発信や情報提供の充実

- ・市民が知りたい情報を効果的に提供するために、広報おおのや公式ホームページなどのさまざまな情報発信手段を活用して、あらゆる世代に必要な情報が届くよう広報活動を進めます。
- ・道の駅「越前おおの 荒島の郷」開駅や北陸新幹線福井・敦賀開業、中部縦貫自動車道の県内全線開通を見据えて、中京圏、北陸圏、首都圏へのメディアセールスやSNSなどを活用したPR広告を強化します。
- ・市を応援したくなるような取り組みやふるさと納税制度により、新たなファンを獲得し「関係人口」の拡大を図ります。

重要業績評価指標 (KPI)	R1 基準数値	R7 目標数値
市ホームページアクセス件数 (累計)	899,674 件	6,510,000 件

主な事業


(3)若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

若い世代が大野市で希望を持って結婚や妊娠、出産、子育てをすることができるよう、働きながら子育てができる環境や地域で子どもを見守る体制の充実、子育ての不安や悩みなどに対する相談・支援体制の強化に取り組みます。

《基本目標》

数値目標指標	R1基準数値	R7目標数値
出生率	4.9‰	5.2‰

《基本的方向》

1 子育て世代への支援の充実

働きながら子育てができる環境や地域で子どもを見守る体制の充実、子育ての不安や悩みなどに対する相談・支援体制の強化に取り組みます。

また、家庭や地域、保育所、認定こども園、学校の連携を強化し、一丸となって、子どもの健やかな成長を支えていきます。

《総合計画上の位置付》

基本目標Ⅰ「こども」 未来を拓く大野っ子が健やかに育つまち

項目	施策
子育て	1 結婚から子育てまで切れ目のない支援体制を確立します 2 保護者のニーズに応じた子育てサービスを提供します 3 サポートを必要とする子どもと家庭を支援します

■ 基本的方向1：子育て世代への支援の充実

- ・将来の結婚や子育てに希望が持てるよう、働きながら子育てがしやすい環境づくりを進めます。
- ・子どもの見守りなど地域での子育て支援の充実を図ります。
- ・妊娠中の不安や育児不安などによる産後うつなど、孤立することがないよう、きめ細やかな相談支援や情報提供、保健指導などを行い、妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援体制を強化します。
- ・質の高い保育・幼児教育の提供と、延長保育や一時預かりなどの特別保育を実施するとともに、保育士などの資質の向上を図ります。
- ・在宅での子育て家庭に対し、関係機関が連携して子育てサービスを提供します。
- ・子育てにかかる経済的な負担の軽減や、子育て情報の発信など、保護者のニーズに即したサービスを充実します。
- ・障害のある子どもや発達に気がかりのある子ども、ひとり親家庭、要保護児童等へ、関係機関、団体等と連携し専門的な支援を提供します。

重要業績評価指標 (KPI)	R1 基準数値	R7 目標数値
出生率	4.9‰	5.2‰
地域子育て支援センター、ちつく・たつく、園開放の延べ利用者数	25,835 人	26,335 人

主な事業
◆

(4)時代に合った活力ある地域をつくり、地域と地域を連携する

自治会や団体において、担い手の減少や高齢化により活動力が低下している中、大野市がこれまで培ってきた「結の心」を大切にしながら、多様な人材を確保し、活力のある地域を次世代につなげていきます。

また、伝統文化の継承や住民の健康づくり、豊かな自然環境と調和しながら快適に暮らすことのできる持続可能なまちづくりにも取り組みます。

《基本目標》

数値目標指標	R1基準数値	R7目標数値
地域運営組織の結成数	—	9組織

《基本的方向》

1 健康づくりの促進

市民が食事や運動などの正しい知識を学び、主体的に健康づくりに取り組むとともに、生活習慣病やフレイルの予防を進め、健康寿命の延伸を図ります。

2 循環型社会の形成

豊かな自然環境を守る活動やごみの減量化・再資源化、地球環境に関する教育や啓発などに市民とともに取り組むことにより、環境にやさしい循環型のまちづくりを進めます。

3 地域活性化と次世代継承の促進

地域活動の活性化や世代間交流を促進するとともに、伝統文化の継承などを地域における重要課題として位置付けて取り組みます。

また、若者の地域活動への参加や自主的な活動を通して、将来を担うリーダーを育成するとともに、関係人口の創出と拡大や、移住者の受け入れにも積極的に取り組みます。

4 協働、連携の推進

市民と協働したまちづくりに積極的に取り組みます。

《総合計画上の位置付》

基本目標Ⅱ「健幸福祉」 健幸で自分らしく暮らせるまち

項目	施策
健康・医療	1 赤ちゃんからお年寄りまで、ライフステージに応じた切れ目のない健康づくりを支援します
地域福祉	1 地域共生社会の実現に向けて取り組みます 2 高齢者が安心して生きがいを持って暮らせるよう支援します
スポーツ	1 スポーツを楽しむ取り組みを推進します

基本目標Ⅳ「くらし環境」 豊かな自然の中で快適に暮らせるまち

項目	施策
自然環境・ごみ	1 脱炭素社会の実現を目指します 2 環境の美化と環境教育を推進します 3 ごみの減量化・資源化を推進します
水環境	1 流域マネジメントを推進します 2 水循環に関わる人材の育成と水文化の継承を推進します 3 気候変動や地下水障害への対応に取り組めます

基本目標Ⅴ「地域づくり」 みんなでつながり地域が生き生きと輝くまち

項目	施策
ひと・地域	1 地域を担う人づくりを推進します 2 地域での交流を深め、支え合いを広げます 3 地域住民が利用しやすい活動拠点をづくります
文化芸術	1 文化芸術の振興と継承を推進します 2 文化・自然遺産を保護し活用します 3 歴史や文化を情報発信します

基本目標Ⅵ「行政経営」 結のまちを持続的に支える自治体経営

項目	施策
協働・連携	1 市民協働のまちづくりを進めます 2 他自治体などとの協働や連携によるまちづくりを進めます

■ 基本的方向1：健康づくりの促進

【健康・医療】

- ・ヘルスウオーキングプログラムの実施や参加者のフォローアップ、健康食守フェスタの実施、ラジオ体操の普及啓発などを行い、健康づくりのための市民の意識付けや機運の醸成を行います。
- ・スポーツ教室の開催などを通して、市民のライフステージごとの興味、関心、目的に応じた運動やスポーツの機会を提供します。
- ・フレイル予防のため、普及啓発の担い手となる市民ボランティア(フレイルサポーター)の養成や、地区サロンや公民館などに出向いたフレイル予防啓発活動、元気づくり体操クラブ活動、健康プラスデーの実施など、楽しく運動を継続できる健康教育などを行っていきます。

【地域福祉】

- ・ボランティアやNPOの活動を促進します。
- ・隣近所の見守りや声かけ、移動支援、買物支援など、地域で暮らしていくための支え合いの仕組みづくりを推進します。
- ・高齢者が身近な場所で、自主的に交流でき、活躍できる通いの場を増やします。
- ・(公社)大野市シルバー人材センターや老人クラブなどの活動を支援し、高齢者の活躍の場を創出します。

【スポーツ】

- ・名水マラソンをはじめとするスポーツイベントの充実を図ります。
- ・スポーツ教室などを開催し、誰もが親しめるスポーツ機会を提供して、市民の健康づくりを推進します。
- ・交流人口の拡大を目指し、スポーツツーリズムを推進します。
- ・市民が継続してスポーツを実践するため、総合型地域スポーツクラブを支援します。
- ・感染症がまん延している場合などにおいても、オンラインを活用するなどして、市民がスポーツに親しめるように取り組みます。

重要業績評価指標(KPI)	R1基準数値	R7目標数値
特定保健指導対象者に対する指導修了者の割合	31.4%	60%
ボランティア登録者数	1,293 人	1,350 人
通いの場の設置数	83 箇所	90 箇所
市民1人当たりの体育施設利用回数	7.66 回	9 回

主な事業



■ 基本的方向2: 循環型社会の形成

【自然環境・ごみ】

- ・木質バイオマスなど地域資源を活用した持続可能な地域を目指します。
- ・地域の豊かな自然を活用した体験型の環境教育や啓発活動を推進します。
- ・地域の草刈りや清掃活動などを促進するとともに、県と共同で行う「スポーツGOMI拾い大会」などの活動を通して、市民が楽しみながら参加できる環境美化活動を強化します。
- ・官民協働による環境パトロールにより、不法投棄の早期発見と早期撤去に努め、監視カメラ設置による再発防止など不法投棄対策を実施します。
- ・市内スーパーなどと連携した資源ごみ回収や市民の集団回収など、官民協働により紙ごみ分別徹底によるリサイクルを促進します。
- ・飲食店などと協力し食品ロスの削減を促進します。
- ・マイバッグやマイボトル運動などの啓発により、脱プラスチックを促進します。
- ・ごみの減量やごみ処理費用の削減に取り組みます。

【水循環】

- ・森林や農地の保全、河川などの環境改善により、貯留・涵養機能を維持し向上します。
- ・水資源の保全と利用の調和を図るための指針を作成するなど、水資源の適正かつ有効な利用を促進します。
- ・水を活用した地域振興や水を通じた地域産品のブランド化など、健全な水循環を通じた地域活性化を推進します。
- ・「越前おおの水のがっこう」を活用した水に関する講座の開催や、小中学校への出張授業の実施など、健全な水循環に関する教育や人材育成、研究の深化を進めます。

重要業績評価指標 (KPI)	R1 基準数値	R7 目標数値
1人1日当たりのごみの排出量	950 g/人日	未定
ごみの資源化率	21.9%	未定
保全目標水位に対する超過日数(過去10年の平均)	45日	36日
地下水質の水道法に定める飲料水水質適合基準との適合率	100%	100%

主な事業
◆

■ 基本的方向3：地域活性化と次世代継承の促進

【ひと・地域】

- ・地域の活性化や地域の課題解決、住民の世代間交流などを進める事業を応援する交付金事業に取り組みます。
- ・住民主体の地域づくりを可能にするための地域運営組織を立ち上げ、暮らしを支える事業などの実施により、地域住民の生きがいづくりに取り組みます。
- ・生涯にわたって、時代に即した学習が行えるよう、生涯学習センターや公民館、図書館などが一体となって、情報発信や学習の支援を実施します。
- ・公民館の行事や講座、地域団体の活動を通し、世代間交流を図ります。
- ・地域住民と関係団体が協働し、地域で子どもを育て、高齢者を見守る体制をつくります。
- ・地域内での交流だけでなく、地域間や近隣市町と交流する機会を創出します。
- ・身近な地域コミュニティ活動の拠点である各集落の集会施設の整備支援を行い、コミュニティ活動の拠点確保を進めます。

【文化芸術】

- ・市民が気軽に参加し、文化芸術に触れることのできる機会を創出します。
- ・市民の文化芸術活動への支援を引き続き行い、文化芸術の振興を推進します。
- ・市内に所在する国・県・市指定などの文化財を、良好な状態で後世に伝えるため、所有者や管理者の負担軽減を図ります
- ・文化財を保存継承するために、新たな文化財の発掘に努め、指定の文化財などの増加を図ります。
- ・博物館において展示や講座、講演会などを開催し、郷土の成り立ちや文化財、伝統文化に対する市民の理解を深めます。

重要業績評価指標 (KPI)	R1基準数値	R7目標数値
公民館利用回数	3.61 回	3.66 回
地域運営組織の結成数	—	9組織
公演などの参加人数の割合	37.5%	45.0%
博物館等における企画展や講座開催数	3回	5回

主な事業
◆

■ 基本的方向4: 協働、連携の推進

- ・市と市民、団体が協働して地域の総力を発揮できる体制をつくるため、住民主体の地域づくりを進めていくための地域運営組織の立ち上げを支援します。
- ・地域資源や特性を生かした自主的な地域づくりや人づくりの取り組みを支援します。
- ・大学や民間企業との連携を進め、より良い市民サービスにつなげます。
- ・他自治体との交流や協定により、市民交流や自治体交流を通じたまちづくりや、緊急時の応援体制の構築を進めます。

重要業績評価指標 (KPI)	R1基準数値	R7目標数値
地域運営組織の結成数(再掲)	—	9組織
姉妹都市等との交流事業参加者数	334人	1,820人

主な事業


(5) 全体的に関連する横断的観点

■ 中部縦貫自動車道県内全線開通、北陸新幹線福井・敦賀開業など高速交通網の整備を見据えた取り組み

大野市では、中部縦貫自動車道の県内全線開通と北陸新幹線の福井・敦賀開業の前後までに、市が取り組むべき事柄について、市民と情報を共有するため、「大野市高速交通アクションプログラム～未来へつなぐまちづくり～」を定めています。

中部縦貫自動車道の県内全線開通により、中京圏との結び付きがこれまで以上に強まり、より一層の交流促進が見込まれます。

また、北陸新幹線の延伸は、東京のみならず北関東方面との産業や観光、文化交流の促進、さらには敦賀・大阪間の早期開業による経済効果が期待されています。

大野市では、人の交流や物流の拡大が見込まれるこの機会を逃すことなく、市民とともにさまざまな取り組みを行うことで、人口減少が進む中であっても持続可能な地域づくりを進めていく必要があります。

■ SDGs、デジタル化、ニューノーマルなど新時代への対応

大野市では、令和12年(2030年)までの長期的な開発の指針として国連で定められた「持続可能な開発目標(SDGs)」の推進に取り組んでいます。

SDGsを活用することにより、行政、市民、民間事業者などの間で地方創生に向けた共通の目標を持つことによって、連携による持続可能なまちづくりを進めることが必要です。

また、新型コロナウイルス感染症により、地域の経済や生活に影響が生じ、デジタル化の遅れなども顕在化しており、コロナに強い社会環境整備や新たな暮らしのスタイルの確立、新たな付加価値を生み出す消費・投資の促進などが求められています。

デジタル・トランスフォーメーションの推進やニューノーマルへの対応を通して、東京圏への一極集中、人口減少、少子化・高齢化という大きな課題に対し、感染症克服と経済活性化の両立の視点を取り入れた取り組みを強化する必要があります。

4. 重点事業

①

目的	
概要	
期待される効果	

②

目的	
概要	
期待される効果	

③

目的	
概要	
期待される効果	

④

目的	
概要	
期待される効果	

●用語解説

番号	用語	解説
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		